網走教組ほんりゅう

第４３０号
網走教職員組合
〒090-0052
北海道北見市北進町4丁目5－31
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
ab-ky@forest.ocn.ne.jp
３月１５日

第25回 網走教組定期大会

改めて教育条理を大切にしていくことを確認

網走教組の第二五回定期大会が、三月五日（土）北見市民会館七号室で行われました。今回の大会は、教職員の協力・協働を壊す「学校職員評価制度」の導入についてや、学校間の競争をあおり、教育そのものを変質させようとする「学力テスト体制」がより一層の推進される現場の状況などの発言が出され、「教育とは何か。」ということを改めて考えさせられた大会となりました。

参加者から特に多く出された声としては子どもの成長をないがしろにした上からの一方的な教育内容への干渉とでも言うべき実態が進行しているということでした。

具体的にはチャレンジテストの現場への押しつけが強まって最優先事項としていつまでにやれ！と迫られたり、点数化しての報告が強要されたり、やらないと加配を剥がすと言われることがあります。ワースト〇〇に入っているからプラスワン問題などと子ども達も嫌気がさす、どうしようもない展開となってしまっている学校もあります。学校での息苦しさが加速して、学力テストが返却されるやいなやビリビリに破り捨てる児童の痛々しい姿も報告されました。

更に、中学校では今年度の入試問題にチャレンジテストと同じ傾向の問題が出されるなど学力テスト偏重の傾向に拍車をかける流れが意図的に作られている印象を受けたという発言もありました。

学力向上を至上命題として授業を管理職が頻繁に見に来て、主事訪問に合わせて時間割を国数主体に切り替えを強く求めてくるなど、児童生徒の実態からではなく行政や大人の都合が優先する状況に本末転倒した昨今の教育現場を憂う声も多くありました。

そんな中で、管理職も悩んでいて、矛楯を抱えての指導や助言であるという側面を見逃さず、相互に批判して無益に対立するのではなく、一致点を見出す努力と共に、教育的条理に照らして対話をする中から理解と納得、これからの方向性も定まるという論議の到達点を得ることができました。

もう一つ、討論の中心になったのが「学校職員評価制度」の問題でした。

ある小学校では、教職員の協力と協働で二つの学級崩壊を克服した事例が報告されました。静かな学級崩壊（一見、皆で落ち着いて学習をしているように見えて実は人間関係は大きく崩れている）に直面したものの、サポート会議により教職員の観察記録の交流と忌憚のない意見が危機を打開したこと、更に三年生のいわゆる派手がサポート会議で話された学級に壊れた学級対応を実践して立ち直ったこと、ここに協働のすばらしさが確認されました。しかし、「これからの評価制度」ではこのような協力関係は望めないのではないか、という不安が出され、その不安を払拭するためにもと大会後に場所を事務所に移しての学習会も行われました。

定期大会が一年間のふり返りと締め括りとなり、私たちの実践をふり返り確信を得る場となりました。そして、四月以降の活動の指針を示し、すぐに学習会へとつなげて早速、緊急の課題を深めるといった活動の原動力となっています。

人事評価制度学習会

３月５日、定期大会が終わった後、網走教組本部にて「網走教組『学校職員人事評価制度』に関わる学習会」が行われました。定期大会の来賓で来ていた道教組の椙木書記長と合わせて８名の参加でした。道教組作成「どうする『学校職員人事評価制度』進めよう『協力・協同の学校づくり』！」の学習討議資料を使って、今回の制度がどんな制度なのか、その理解を深め、問題点やこれからのわれわれの対応について学習を進めました。

学習を進める中で、そもそも公平な評価などできないのでは？という多くの疑問の声があげられました。絶対評価でＡＢＣを付けそれを相対評価のＡＢＣに振り分けていく。もし絶対評価がＡばかりだったらどう客観的に相対評価にするの？困難な業務や対応の難しい学級などでは、ＤＥが出やすいから行きたがらなくなるのでは。置かれている状況がそれぞれ違うのに適正に評価ができるの？評価に管理職の恣意が入り、連続Ｅが付くと最低１年で分限処分の可能性など、気に入らない先生は烙印を押されてしまうのでは？年に３～４回管理職と面談をすることになる。現状でもやれていない学校があるのに、本当にできるの？子どもの成長は半年や１年での教育の結果では必ずしも現れないのでは？逆に数年かけた取り組みが花開くということもあるのでは？集団での取り組みはどうやって評価するの？

この制度が進められると、知らず知らずのうちに子どの達を短絡的に見てしまうのではないか。見せる指導が主流になるのではないか。いかに上手に授業をやるかという傾向が進んでいくのではないか。子どもが自分で考え、それを待つ姿勢が大切なのに、待てない教師が増えるのでは。そして、若い先生はそんな状況が当たり前だと思ってしまう。そんな様々な問題点も話されました。

まずは、全体の場で意見を言うなど職場での合意作りを進める必要があるのではないでしょうか。さらに、管理職とも話し合い、客観的な評価はできないということを一緒に押さえることも必要です。そして何より大事なのは、我々が教育のイメージを持つこと。教育とは何か。子ども達の将来を見据えて、子ども達をどう育てようと考えるのか。そのことで、一人では教育を進められない、協力・協同が学校に必要だということをみんなで確認することが、この制度を空洞化していくものにするのではないでしょうか。その点でも「学校づくりの申し入れ書」の学習は重要です。

この制度は新年度４月から始まります。この１０日には管理職が集められ説明会が行われます。それぞれの支部でも先の資料を使って学習してこれからの提案や校長との話し合いに備えてください。